

氏名	菰 田 敬 三		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	博 乙 第 2234 号		
学 位 授 与 の 日 付	平成 3 年 3 月 28 日		
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）		
学 位 論 文 題 目	ラット慢性血清病腎炎に関する研究 第 1 編 ラット慢性血清病腎炎発症における免疫複合体の動態 第 2 編 ラット慢性血清病腎炎発症後の免疫病理学的検討		
論 文 審 査 委 員	教授 木村郁郎	教授 辻 孝夫	教授 大森弘之

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

ラット慢性血清病腎炎を作成し、腎炎の発症機序を流血中の IC の動態と組織学的変化を対応させて検討し、抗原投与中止後の糸球体変化を長期にわたって観察した。ラット CSS 腎炎では IV 期において CIC は十分高い値を呈し、組織学的にも全てのラットではほぼ均一に上皮下に BSA, IgG および C3 の沈着を伴う膜性型の腎炎を呈し IC 型膜性腎炎の典型例であった。抗 BSA 抗体価は皮下免疫期より上昇し、抗原の静注を続けた静注期においても低下せず、抗体過剰域の IC の存在が推測された。CIC は静注期になって初めて高値となり、腎炎発症まで 3 - 4 週間の time lag が存在した。この時期には毛細血管内に大量の IC の沈着、多核白血球、単球の浸潤など網内系による処理も観察され、腎炎発症には網内系の飽和が必要であることが示唆された。CSS 腎炎において抗原投与を中止すると血清学的にも形態学的にも 80 週の経過で基底膜病変は改善され、人膜性腎炎に類似した経過をたどり、CSS 腎炎は人膜腎炎の進展・修復過程を考えるうえで有用なモデルであるといえた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はラット慢性血清病腎炎の免疫複合体の動態と免疫病理学的検討について研究したものであるが、従来十分確立されていなかった慢性の血清病腎炎の長期観察において、IC 型膜性腎炎の典型例であることを認め、又抗原の授与中止によって人膜性腎炎に類似した経過を辿り、その進展、修復過程を考える上に有用なモデルであることを認め、重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。